

善光寺表参道商店街における看板調査

—平成 30 年度信州大学教育学部学生書道展での研究発表報告—

小林 比出代

1. 本研究調査の背景と目的

「信州大学教育学部学生書道展」は 2017(平成 29)年度まで「信州大学教育学部卒業書道展」との名称で開催してきたが、在籍する学年に関わらず、国語教育コース書写書道教育研究室の学生を中心に多くの学生が出品するため、2018(平成 30)年度より「学生書道展」と改めることにした。同書道展では、大学研究機関が主催するものとして、書道作品を発表する一方で、例えば、辰野町の「龍溪硯」の制作や飯山市の「内山紙」と地元小学生との関わり、また、教育学部建立の「正木先生碑銘」の採拓報告等、毎年、地域と関わるものを研究テーマに設定し、その成果も発表している。

平成 30 年度信州大学教育学部学生書道展を企画運営するにあたり、3 年生(当時)の市ノ瀬有香さんから次の提案がなされた。ご本人から承諾をいただき、原文のまま掲載する。

2018 年 10 月 15 日

「門前書道ウォーキング(仮)」

長野市街地には街中に多くの書がある。とりわけ、長野駅と善光寺を結ぶ中央通りには至る所に石碑や看板が見られる。太田剛先生が作成した「長野駅北 書道散策 Map〈略地図〉」にもそれらの石碑や看板が多く記されている。この略地図の表面には石碑や看板がある場所と写真、そして誰が揮毫したのかが記され、裏面には主な揮毫者の紹介文が書かれている。作成の経緯や内容の充実さから、書道に馴染みのある高校生や教員に向けて作られた略地図だといえる。

さて、13 日(土)に 2, 3 年生で散策を行ったが、散策をする中でいくつかの成果を得た。成果やそれに伴って考えたことを以下にまとめる。

- ・今まで普通に歩いているだけでは気が付かなかった看板が多くある。

- ・書に注目して歩くことで、長野市の街並みのよさを感じながら歩くことができる。
- ・一つのお店に何種類かの書体・書風で書かれた看板が存在することもある。

書に注目しながら歩くことによって、いつも通っているはずの道が全く異なって見える。1年以上、あるいは約半年長野市で生活してきた私たちの目にも長野市の街並みは新鮮なものとして映った。この発見を踏まえ、今年度のパネルの方針を次のように定める。

学生書道展には多くの人を訪れる。書道に精通している人から普段は書に全くふれていないという人まで、内訳は様々である。今回はその中でも、主に書に馴染みがない人を対象にしたパネル及びパンフレットを作成し、書道展を見た後に実際に通りを歩きながら書に親しむことができる、ということを目指す。気軽に書を楽しむことを目的とするため、記載する看板を中央通りに限定し、一度に（または往復することで）全てを見ることができるようにする。また、気軽に鑑賞することができるように、お店の中に入らずとも鑑賞することができる看板に限定する。パネルには代表的な看板についての情報を掲載し（揮毫者、書体、看板の特徴など）、パンフレットにはパネルに掲載したものの簡易版を記す。

この活動をすることで、信州大学に通っている学生や長野市で生活をしている人、もしくは偶然立ち寄った人が、自らが暮らしている街並みに興味を持つことができると考える。これは地域貢献の一環として信州大学で書写書道について学んでいる私たちだからこそできるものだと考える。また、作成を通して書が与える印象について私たち自身も再認識することができるという効果が狙える。

2. 本研究調査の工程

先の提案を受けて、同書道展が開催される2019(平成31)年2月まで、具体的な調査と考察、及び発表準備が行われた。その工程を3年生(当時)の鈴木寧々さんが次のようにまとめている。

- ①もともとは〔※書道展にご来場くださる皆様方に（小林注）〕書に親しんでもらうため、善光寺から駅までの通りにある看板について、書体を調査する〔※ことが本調査の趣旨だった（小林注）〕。
- ②しかし、看板を調査していく中で、有名な書家の方々が揮毫して作られた看板が多く残っていることや、手書きの看板が多いことに気づいた。
- ③手書きの文字によって書かれた看板を見たりすることは、書に親しむことにつながり、もともとの活動の趣旨とも違わない。
- ④地域のお店の方々に調査をする事で、（有名な書家以外の揮毫した）お店の看板にまつわる話を多く聞くことができた。

→これらをまとめることにより、わたしたちにとって身近にあるけれどもあまり目にとめていなかった看板に目を向けるようになることで、学生書道展に来てくださる長野市に暮らしている方々に、少しでも書に親しんでほしい、また、書道を専門にして勉強する地域の大学生だからこそできる企画を通して、地域とのかかわりを大切にしたいと考えている。

3. 本研究調査の発表の様子

平成 30 年度信州大学教育学部学生書道展にご来場くださった皆様方にお渡ししたリーフレットには、次のような挨拶文が記されている。

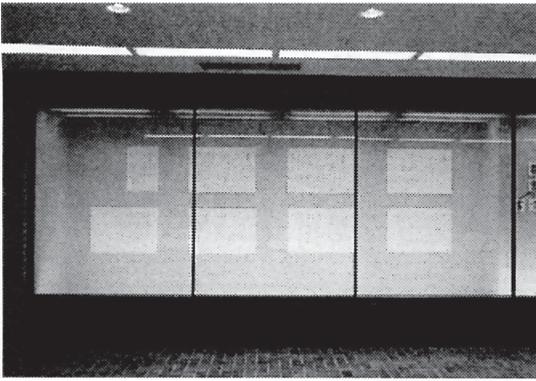
《善光寺表参道商店街における看板調査について》

本年度は、長野駅から善光寺までの道沿い、通称「善光寺表参道商店街」にあるお店の看板について調査を行いました。実際に街を歩いて調査する中で、毛筆等によって手書きされた看板、文字を木に彫った刻字の看板、活字やデザイン文字で作られた看板と、多種多様なものがあることがわかりました。今回は、善光寺表参道商店街の皆さまのご協力のもと、書作品として歴史ある看板に着目して、その看板を所有しているお店と揮毫した書人についてまとめてみました。

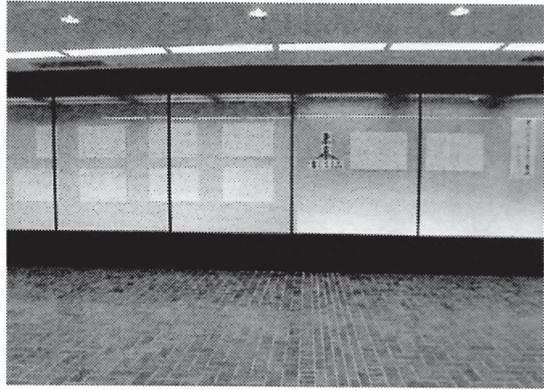
また、看板を所有しているお店についてのマップ制作も行いました。この展示を通して、街歩きをまた違った視点から楽しんでいただければ幸いです。どうぞごゆっくりご覧ください。

併せて、発表したパネル(一部)とマップ、及び会場準備の写真を掲載する。撮影と写真データの提供にご尽力くださった友田義行先生に深謝致します。

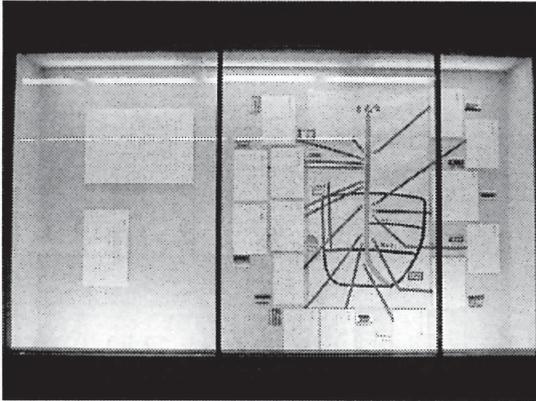
1



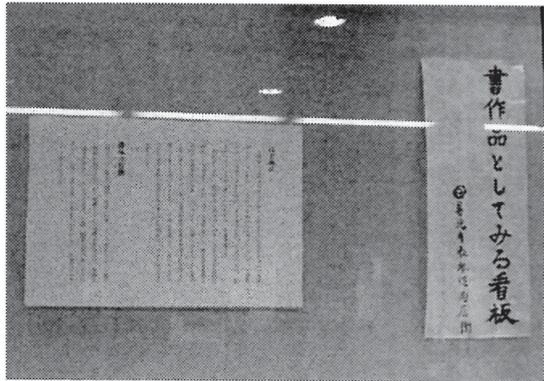
2



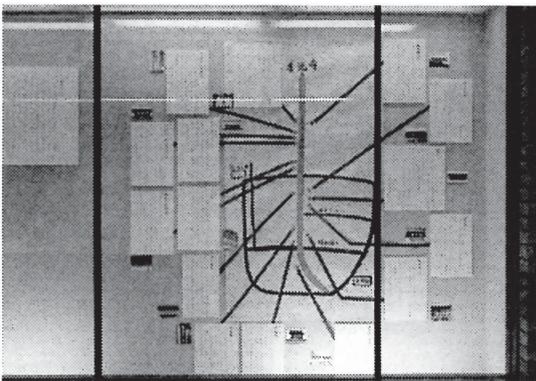
3



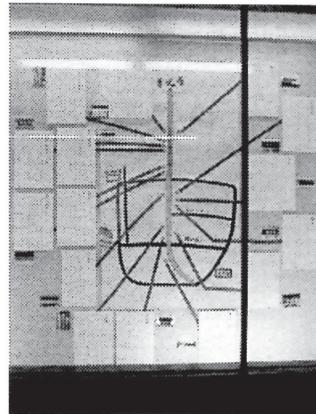
4



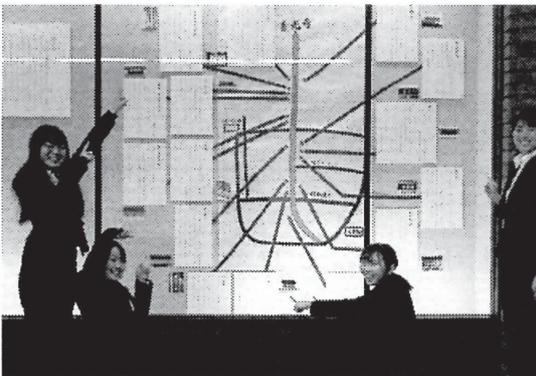
5



6



7



8



写真 1～7 学生書道展でのパネル発表

写真 8 会場準備 (於 信濃教育博物館)

(こばやし ひでよ 信州大学教育学部)